

留学報告レポート

<目次>

1. はじめに
2. 中国について
 - ・ 基本情報
 - ・ 中国の食事
 - ・ 中国のお金
3. 厦門について
 - ・ 基本情報
 - ・ 厦門の観光スポット
 - ・ 厦門の特産物
4. 学校生活について
 - ・ 厦門理工学院
 - ・ 遼
 - ・ 部活動
5. おわりに

1. はじめに

私が、宜野湾市の交流派遣留学に参加したきっかけは、沖縄は本州と違って独特な文化を持っており、その独特の文化は中国の文化の影響を受けているため、中国と沖縄は似ているところがあり、沖縄独自の文化の原点になっている中国に興味を持ち、沖縄の文化を知って満足するだけでなく、中国に行ってどんな影響を受けたのかを実際に自分の目で確かめてみたいと思ったからです。

2. 中国について

●基本情報●

面積：約 960 万平方キロメートル

人口：約 13 億人(2011 年 5 月現在 13 億 3 千 9 百万人)

人種：総人口の約 90%は漢族が占めている。残りの 10%は 56 の少数民族からなっている。

言語：

1. 北京語(普通語)
2. 上海語
3. 湖南語
4. 江西語
5. 閩南語(福建語)(台湾語)
6. 客家語
7. 広東語

国歌：義勇軍進行曲

国花：牡丹

国旗：中国の国旗は『五星紅旗』である。

赤は共産主義のシンボルの色、黄色は光明を象徴する。大きな星は中国共産党、小さな四つの星は中国の人民大衆である労働者、農民、知識階級、愛国的資本家を指している。共産党指導のもと、人民大衆が大団結する様子を表している。また同時に、大星は中国本土、4つの小星はそれぞれ満州、モンゴル、ウイグル、チベットを表わすとも言われる。



中国の食事

広大な中国では、各地で風俗・習慣が異なり、料理も中国全土で数十種類の地方料理が存在し、これらを総称して中華料理という。

中華料理の代表格として『四大料理』や『八大料理』がある。

四大料理とは、山東料理、四川料理、江蘇料理、広東料理の四種をいい、八大料理は、四大料理に安徽料理、湖南料理、浙江料理、福建料理をくわえた八種を指す。

中国のお金

中国では「人民幣」（RMB レンミンピー）という単位です。

1元 = 10角 = 100分

最もよく使われるのは「元」の単位ですが、元の下に「角」、その下に「分」という通貨単位があります。現在「分」という単位は小さすぎてほとんど使われていないので、「1元 = 10角」が基本です。



100元紙幣(中国では最大の通貨単位です)



50元紙幣



20元紙幣



10元紙幣



5元紙幣



1元紙幣



5角紙幣

(1元の2分の1の単位)



2角紙幣



1角紙幣



1元硬貨

日本の500円玉くらいの大きさです。



5角硬貨

色は金色(日本の5円玉に近い色)



1角硬貨

日本の1円玉によく似ています。

3. 厦門について

●基本情報●

面積：約 1700 平方キロメートル(東京都の 3/4)

人口：約 350 万人(2010 年国勢調査の数値)

言語：閩南語(福建語)

アモイ（厦門）は中国福建省南部の都市で、九竜江河口に位置し、5 大経済特区の 1 つで、省都福州に次ぐ副省級市に指定されています。日本を含め、国際的に知られている「アモイ」という地名は、「厦門」を閩南語（福建省南部や台湾などで使われている中国語の方言）読みしたものである。

アモイは亜熱帯気候に属し、1 年を通じて温暖な気候で、降水量も安定しているのが特徴です。

この都市の主な歴史は、1841 年のアヘン戦争時にイギリス軍によって占領され、翌年の南京条約によって外国人にも開放されました。アモイは 16 世紀初めの明の時代にオランダ、スペイン、ポルトガルなどの外国商人が茶葉の買い付けに多く訪れ、中国随一の茶葉輸出港として繁栄しました。現在でも福建省のウーロン茶は有名です。

1980 年代に経済特区に指定されてからは、海外投資も多く、外資系企業が多数進出しました。日本企業は台湾、アメリカに次ぎ 3 位です。

アモイの主な観光スポットはフェリーで行くコロンス島で、中国屈指の景観地です。欧米諸国が建造した領事館、学校、教会、洋館、この島の最高峰の日光岩、アモイ博物館があります。

4. 学校生活について

★厦門理工学院★

厦門理工学院は、とても広い学校で、敷地面積が 733 平方キロメートルもあります。

この学校には、キャンパスが 2 つあり、1 つは、旧キャンパスで、厦門島の中心地にあります。そして、もう一つは、新キャンパスで厦門島の外にあります。私は、新キャンパスの方に通っていました。新キャンパスがある集美区は、少し田舎なので、中心地とは違って、お店が少なく、静かな所です。しかし、畑や草花がたくさんあり、自然豊かなところ。また、夜になると星がとてもきれいに見えます。

大学の周りは、夜になるとたくさんの屋台が並んでとてもにぎやかになります。屋台では、食べ物はもちろん、洋服・靴・アクセサリ・日用雑貨まで、何でも売っています。

校内は、湖を中心にして囲むように図書館・事務棟・教学楼・実験棟などが建っており、

その後ろには、食堂・ホテル・寮・体育館・運動場・ホールがあります。校内にはいろいろな施設があり、とても充実しています。また、草花がたくさん生い茂り、湖には、たくさんの魚が泳いでいます。広大な敷地に近代的な建物、そして緑がいっぱいのきれいな学校です。

★寮★

私が住んでいた寮は、中国人の学生の寮とは違って、先生や留学生専用の寮に住んでいました。寮は1人部屋で、部屋には、テレビ・クーラー・冷蔵庫・電子レンジ・洗濯機など、家電製品は全部そろっていました。また、トイレ・お風呂・キッチンがきちんと完備されていました。

★部活動★

私は、バレーボールをするのが大好きなので、厦門に来てすぐにバレーボール部に入りました。最初の頃は、言葉が全く通じず、すぐにはなじみませんでした。が、だんだん、みんなが声をかけてくれて、少しずつなじんでいきました。私は、スポーツを通して、中国の仲間意識の強さや、人の温かさを直に知ることができました。

たとえ言葉が通じなくても、一緒に同じスポーツをして、一緒に汗をかいて、一緒に笑えるので、スポーツに国境はないと思いました。

5. おわりに

留学を振り返って思ったことは、1年が経つのはとても早いなと思いました。私が厦門に来たばかりの頃は日本とは生活環境や文化が違いすぎてすぐには慣れませんでした。また、言葉も通じず、授業が終わったら寮で一人ぼっちになってしまうので、正直、最初の頃は少し、ホームシックにかかっていた。しかし、だんだん友達も増えていき、週末にはバスに乗って島内に買い物に行ったり、部活やイベントなどに参加していくうちに、厦門の生活にも慣れていき、とても充実していました。

私は、留学している間、中国のいろいろなところに行きましたが、その中でも、厦門が一番好きです。なぜなら、気候や道ばたに咲いている花や木、そして人の温かさがとても沖縄と似ているからです。旅行先から厦門に戻ってくると、「帰ってきた～」という気持ちになります。厦門は私にとって『第2の故郷』です。だからまた、何回でも遊びに行きたいです。

留学から帰ってきて一番思ったのは本当に恵まれているということです。中国にいる間は、先生方や友達に支えられて楽しい留学生活を送ることができました。人は一人ではなく、いろんな人と出会い、支えられて生きていくということがわかりました。また、こうして留学に行けたということにとっても感謝しています。今後はこの経験を生かし、厦門と宜野湾市の友好関係が今よりももっと親密なものになるように微力ではありますが協力

していきたいと思っています。

こんな素敵なチャンスを与えてくれた宜野湾市役所の皆さんや両親に心から感謝しています。ありがとうございました。